

「1人で闘う力」

12組 若尾和美

高校3年間を通して私が一番最後に身に付けたことは、「1人で闘う力」である。

高校1・2年生の時は部活動などの仲間と共に切磋琢磨し合いながら目標を達成したり、壁を乗り越えるなど「仲間の大切さ」を学んだ。1人で出来ないことも仲間や家族がいることで出来るようになったり、辛い事があった時も相談を聞いてもらえる事が心の支えであった。

しかし、高校3年生になってからコロナ禍での受験勉強や部活動との両立など1人で決断をしなければいけない事、計画を立てていかなければいけない事が増えていく中で、周りの人に頼りすぎているのではないかと思うようになった。振り返ってみると、部活動でもキャプテンとして部員をまとめなければいけない時でも自分の意見に自信がなく、何度も副キャプテンや他の部員に支えられてきた。当時はきっと「どんな困難も仲間がいれば乗り越えられる」なんて甘ったれた考えだったのだと思うが、今はそれは逃げだと思う。

それぞれの役割をあたえられた以上、部活動であろうが、仕事であろうがやるべき事をやらなくてはならない。

受験勉強もそうだが、やはり親や友人の応援はとても力になるし支えである。しかし、最後に頑張るのは「自分」だ。どんなに周りが支えてくれたって自分がやらないと結果につながらない。結局は自分との勝負であり、心で思っている自分でも自分で計画を立てて実行し継続していけないと意味がない。周りの人が受験を終えて楽しそうにしている姿を横目に見ながら自分は勉強。少し辛くなる時もあるがそこで身に付けた「1人で闘う力」は今後の自分の自信につながると思う。コロナ禍においても自分自身で計画を立て実行することで部活動と受験の両立を最後までやりきることができた。

限られた環境の中で自分ができる事を考えて見つけようとする姿勢を高校生うちに習慣づける事は今後の成長につながると思う。